

連載

春秋の花4

大西巨人

深く広い詩筆から鋭利な洞察力によって編まれた
文芸アンソロジーの白眉。

誌上シンポジウム

『世界共和国へ』をめぐる
柄谷行人・浅田彰・高澤秀次・萱野稔人

〈帝国とマルチチユドの対峙〉という図式を超えて、
国家を真に揚棄する思想の方向を探る白熱の議論。

特集

ビーフルパワー―エドサ革命20周年 / JCNCC(日本ネグロスキャンペン委員会) 創立20周年記念企画
フィリピンの「対抗的政治社会運動」批判

34

独裁政権を打倒した民主革命以後の二〇年は、
覆いがたい政治的・経済的難題の噴出の過程でもあった。
これを検討することなしに、混迷した国家・社会を再建することは不可能である。



特集1

共産党の政治・軍事路線の破綻を超えて
フレッドボデオス
ネグロス島新人民軍経験がもたらしたものと

エドサ革命の高揚を傍観したフィリピン共産党は、その総括と
新路線をめぐる分裂を繰り返した。当時新人民軍に参加し
過酷な経験を重ねた活動家が語る誠実かつ稀有な体験の記録。

特集2

NGOにとって政治運動・組織とは何か
JCNCC(日本ネグロスキャンペン委員会) 二〇年の体験的総括

秋山真兄

日本で最も成功したNGOと評価されるJCNCCの歩んだ
困難で感動的な道筋を振り返り、南北民衆連帯に必須な
諸条件を提示する、NGO志願者にとって必読のレポート。

特集3

現代フィリピン社会と国家の分析視角
〈弱い国家〉理解の共通認識に向けて

内田晴子

エドサ革命の衝撃は政治運動のレベルばかりか、政治学や
社会学にも及び、新しい観点からのフィリピン国家・社会の
研究を生み出している。それらを明晰に腑分け紹介する論者。

特集4

現代政治諸勢力の俯瞰図
共産党の四分五裂と社会民主主義・軍の台頭

アール・G・パレーヨ

マニラの第一線で活躍するジャーナリストが、日本からの
視線では捉えられない対抗勢力の様相を系統立てて報告し、
軍部をも含む統一戦線の可能性を省察する最新政治情勢分析。

特集5

「世界史の中のフィリピン」私観
「封建制」なる「魔」語を外して見る社会像

湯浅越男

ウィットフォード史観を紹介・発展させた碩学の著者が、
ウォーラステインやアミンなどの大理論では盲点になっている
フィリピンを世界史の中に位置づける独創的で画期的な論考。

参考文献リスト

フィリピン研究ブックガイド

玉置真紀子

コラム

摩訶不思議な「税金」のはなし / 親族の呼称に見る言語的特性 / アロヨ政権下で多発する「政治的殺人」 / フィリピン・キリスト教のニューウェーブ / 自律と援助漬けの均衡点 / 社会階層から見るフィリピンの言語事情 / フィリピン経済を牛耳るスペイン系・華人系財閥 / 政府協賛の非合法賭博?

36

38

40

42



「水俣病」運動の半世紀から見えるもの
「根拠」を持たない運動の可能性の方へ

吉岡忍×吉田司

124

ケアの社会学
第三章 介護費用負担の最適混合へ向けて

上野千鶴子

138

「協同」の現場から

- 1 フィリピン日系人リーガルサポートセンター
- 2 カラカサンく移住女性のためのエンパワメントセンター
- 3 ポルボロンの会

136 122 76

デザイン覚書4

鈴木一誌

155

「P」4号に書いた／語った人たち
編集後記・次号予告

157 156



写真・図版提供、協力
日下涉、玉置真紀子、大橋成子、長坂裕、竹見智恵子、東賢太郎、
木場紗綾、PNLSC、カラカサン、ポルボロンの会、ほか

戦後の最大最悪の公害であったチッソによる水俣病事件は、
発病五〇年の今年、改めて大きな論議の渦中にある。定評ある
ノンフィクション作家二人の運動論から見た患者運動とは。
介護の常識＝制度を大胆に審問し、福祉多元化社会にあつての
最適解を探求する注目の連載。家族介護が自然なものでなく
望ましくないことすらあるとすれば、誰が引き受けるのか。